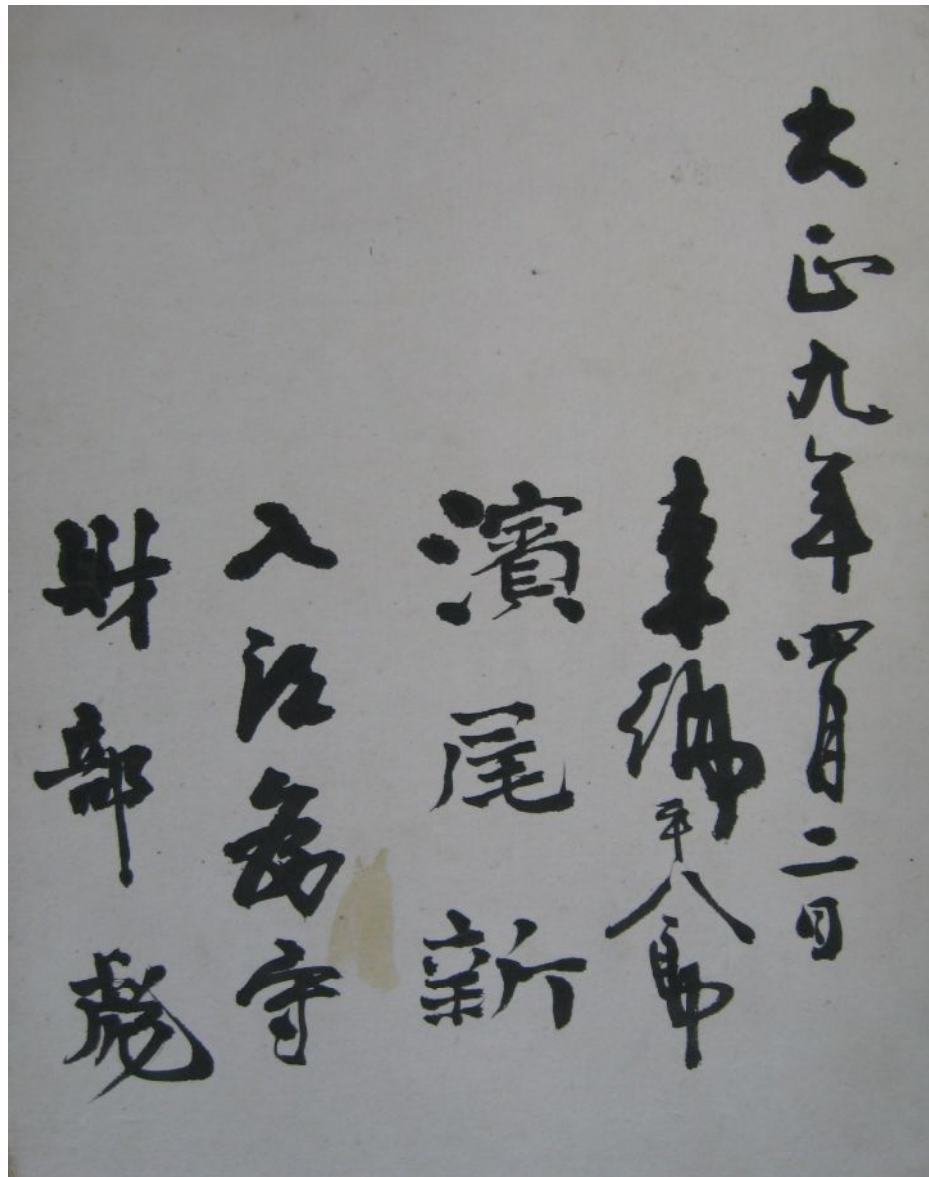


皇太子殿下(昭和天皇)
御来館に東郷平八郎ら随行



大正九年四月二日

東郷平八郎

濱尾新

入江為守

財部彪

<記帳者の紹介>

東郷 平八郎 1847～1934

日露戦争中の日本海海戦を勝利に導いた聯合艦隊司令長官

大正2(1913)年、元帥。大正3(1914)年から同10(1921)年まで東宮御学問所総裁を務めていた関係で、東宮に随行、来崎した。

浜尾 新 1849～1925

教育行政官（「南校」に始まる東京(帝国)大学の全ての局面において、同校の管理運営の中枢にあった人物、総長就任は2回）

大正3(1914)年から大正10(1921)年まで、東宮大夫を務めていた。

（その間、枢密顧問官を兼任、後ち枢密院議長に就任した。）

入江 為守

東宮侍従長、歌人

大正3年から天皇即位まで、東宮侍従長を務めた。その後、御歌所長、皇太后宮大夫に就任した。

財部 彪 1867～1949

海軍大将、海相

大正7(1918)年から大正11(1922)年まで、佐世保鎮守府長官を務めていた関係で来崎した。（東宮は長崎訪問後、佐世保へ向かわれた。）



図書館御立寄 (下に、その記事を紹介します。)

諏訪公園丸馬場より 最(イ)と御軽快に 御徒歩にて 十時十分図書館に成せらる。同館門内には松浦伯、永山図書館長及び館員一同の御出迎を受けさせられ 直に階上なる資料室に於て

- ・ 葡萄牙吉利支丹関係 廿点
- ・ 阿蘭陀 其他欧州諸国関係 廿六点
- ・ 東洋諸国関係 十六点
- ・ 長崎地方変遷史 六点
- ・ 美術史料 九十八点

を御台覧遊ばされ 永山図書館長より四十分に亙りて 御説明申上げたるに 殿下には最(イ)と御熱心に聞き召され、畏れ多くも一々肯かせ給ひたる由 承はる。殊に当港貿易史料には深く注意遊ばされたるやにて 浜尾東宮太夫より永山図書館長に対し 特に貿易史料の蒐集を委嘱されたりといふ。次いで階下の県下各学校生徒児童の成績に就きても 一々御目を留めさせられ 最後に同館前庭に於て 浜田東宮武官より唐鍬を御受け遊ばされ、樅樹(モジユ)の御手植をなさせ給ひ 十一時 商品陳列館に成らせらる。

註)「学生生徒児童の成績」

学生生徒児童の作品の意と解釈されます。

「樅樹(モジユ)の御手植」

現在も本館前庭にあります。

「商品陳列館」

現在の日本銀行長崎支店の敷地に、明治29(1886)年竣工した施設。

長崎市が中心となって設立し、市・県の特産品の販路拡大、貿易振興を目的に、農・工芸品の見本を展示していました。売店も設けられ、観光客相手の土産物品店としての機能もありました。

(昭和5(1930)年、「商工奨励館」と改称されました。)

「同」大正9年4月5日の記事より

図書館展覧会

東宮殿下台覧の榮に浴したる長崎図書館の展覧会は 一昨日は祭日とて午後三時頃迄に 參觀人 四千余名を超過したる大盛況なりしかば 昨四日までにて閉会の筈なりしも 本日まで日延して開会する由

(『県立図書館 50年史』に、4月3日～5日の入場者10,986人とあります。)

「同」大正9年4月1日の記事より

4月2日の日程

- ・御召艦香取 入港時に(高銚島前海で)長崎遊泳協会による海中奉迎
- ・大波止着
- ・県庁
- ・諏訪神社参詣 島原産駿馬御台覧
- ・丸馬場 小学生の体操御台覧
- ・図書館
- ・商品陳列所
- ・重砲兵大隊 御閲兵
- ・(大波止から御召艦にて)占勝閣 昼食
- ・立神工場見学
戦艦土佐の第一鋳打式 軍艦多摩製造工程見学
- ・鮑ノ浦工場
タービン解剖見学
- ・御帰艦 (東宮のお目にふれるように ハタ揚げ、ペーロンを実施)

- ・侍従御差遣 三菱兵器製作所・同製鋼所・松尾造船所・佐古招魂社

(4月3日午前6:30 長崎発 佐世保へ)